

厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）  
「歯科衛生士及び歯科技工士の就業状況等に基づく安定供給方策に関する研究」  
（H29 - 医療 - 一般 - 003）  
平成 29 年度 分担研究報告書

## 歯科技工士の就業状況等に基づく安定供給方策に関する研究（第一報）

研究分担者 鈴木 哲也（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 教授）  
研究分担者 大島 克郎（日本歯科大学東京短期大学 教授）  
研究分担者 安藤 雄一（国立保健医療科学院 統括研究官）  
研究代表者 須田 英明（東京医科歯科大学医歯学総合研究科 名誉教授）

### 研究要旨

本研究では、全国の歯科技工士養成施設の中から、同窓会組織の運営管理がされている施設を複数選定し、その卒業生を対象として、免許取得直後や現在の就業状況等を把握するとともに、就業継続や離職等に影響を与える関連要因を明らかにすることを目的とする。本報告は、初年度研究計画の一環として、比較的規模の大きい歯科技工士養成施設を対象に行った調査に関する分析結果である。

対象施設の卒業生の中から無作為抽出された者を対象として郵送法による自記式質問紙調査を行い、有効な回答が得られた 239 件（有効回答率：19.6%）を分析対象とした。

分析対象者の平均年齢（標準偏差）は 37.8 (9.6) 歳であり、年代別では、20 歳代 22.6%、30 歳代 30.1%、40 歳代 34.3%、50 歳代 12.6%であった。性別は、男性 63.2%、女性 36.8%であった。現在、歯科技工士の資格を以て就業している者は 61.5%であり、歯科技工士として就業していない者は 38.5%であった。現に歯科技工士として就業していない者が、歯科技工士としての仕事を離職したときの平均年齢（標準偏差）は、25.6 (5.0) 歳であり、79.4%の者が 20 歳代で離職をしており、そのうち 51.1%の者が 20～25 歳未満で離職をしていた。離職の理由として多く認められた回答として、「給与・待遇の面（57.6%）」、「仕事内容への不安（45.7%）」、「健康面（34.8%）」などが挙げられた。現に歯科技工士として就業していない者は、歯科技工士として就業している者に比べ、歯科技工士としての業務内容に見合うと思う給与は 20～30 万円未満では少ないと感じており、また、女性においては、免許取得後に歯科技工士として働き始めた 1～2 年目の時における日々の業務に対して不満を感じている傾向にあった。

今回、初年度研究計画の一環として、歯科技工士養成施設 1 校の卒業生を対象として、歯科技工士の就業状況等に関する調査を行ったが、今後、他の施設に対しても同様の調査を実施し、歯科技工士の就業状況等に基づく安定供給方策に関して、さらに考察を加えていく予定である。

## A. 研究目的

国民が質の高い補綴物を望むのは言うに及ばず、昨今ではその作製のほとんどが歯科技工士に委ねられており<sup>1,2)</sup>、歯科技工士の安定供給は重要な課題である。とりわけ今後の急速な高齢化の進展を踏まえ、当面は補綴物の需要は横ばいを推移することが予測される<sup>3,4)</sup>ことから、その検討は急務である。

しかし近年では、歯科技工士の供給状況に関しては、衛生行政報告例の結果から就業歯科技工士数は漸減傾向にあり、特に若年層の減少が顕著となっている<sup>5,6)</sup>。また、歯科技工士の就業継続率により将来推計をした報告において、青山らは2010年の就業者数35,413人が2020年には約5千人減少することを予測し<sup>7)</sup>、大島らは同様の方法で2014年の就業者数34,495人が2024年には約6千人の減少が見込まれることを示している<sup>4)</sup>。これらの結果は、各調査が分析された4年の間において歯科技工士の継続就業率のさらなる低下を示唆するものである。さらに、一部の地域を対象として歯科技工士数の減少に関する実態を調査した報告<sup>8,9)</sup>によれば、約半数の歯科診療所が歯科技工所での後継者不在の経験等を有しているなど、既に歯科技工士数減少の兆候の一端が表出している可能性があることを示唆している。

こうした現況から、歯科技工士養成施設を卒業し免許を取得した者の就業と定着が望まれるが、実際にはその就業率は低い状況にあり、たとえば2016年時点では、免許取得者数118,551人に対して就業者数は34,640人(就業率率:29.2%)と報告されている<sup>5,10)</sup>。歯科技工士の就業状況に関する全国規模の調査は、これまでも多く行われているものの<sup>11,12)</sup>、その対象は、現に歯科技工士として就業している者が主であり、就業継続に関わる要因等の把握は困難である。このため、歯科技工士を離職等した者も含めて実態把握を行う場合、歯科技工士養成施設の同窓会組織などを対象とした調査が考えられるが<sup>13-15)</sup>、全国的な規模で就業後の定着や離職に関わる要因を分析した報告は見当たらない。

そこで本研究では、全国の歯科技工士養成施設の中から、同窓会組織の運営管理がされている施設を複数選定し、その卒業生を対象として、免許取得直後や現在の就業状況等を把握するとともに、就業継続や離職等に影響を与える関連要因を明らかにするための調査を行う。本報告は、初年度研究計画の一環として、比較的規模の大きい歯科技工士養成施設を対象に行った調査に関する分析結果である。

## B. 研究方法

### 1. 調査対象および調査方法

本研究では、事前に行ったスクリーニング調査を通じて、調査協力依頼が得られた複数の歯科技工士養成施設のうち、比較的規模が大きい施設1校を対象とした。調査に際しては、対象となる歯科技工士養成施設の協力の下、同施設が保有している卒業生の住所リストの中から卒業30年までの者について、卒業年次ごとに均等に抽出された者1,600名を対象として、郵送法による自記式質問紙調査を行った。そのうち、宛先不明で314件の返戻があったため、実際に配付可能であった調査票の件数は1,286件であった。

調査は、2017（平成 29）年 12 月 4 日から同年 12 月 25 日の期間に実施し、回収数は 240 件（回収率：18.7%）であり、有効回答数は 239 件（有効回答率：18.6%）であった。本研究では、この有効回答 239 件を分析対象とした。

## 2. 調査内容

質問紙調査に用いる調査票には、全ての者に対する調査項目として、対象者の属性（年齢、歯科技工士としての就業年数、歯科技工士免許を取得した年齢、性別、婚姻状況、世帯員数、子供の数）、歯科技工士養成施設に入学した理由、歯科技工士会への入会状況、現在の就業状況（歯科技工士として働いているか否か、歯科技工士としての業務内容に見合うと思う給与、これまでに歯科技工士として働いた職場を変えた回数）、免許を取得してから歯科技工士として働き始めた 1～2 年目の時の状況（就職先を選択した際に重要視した条件、学会や勉強会等への参加機会、給与の状況、勤務時間の状況、日々の業務状況）を設定した。

また、現在、歯科技工士として就業している者に対しては、就業環境（現在の就業場所、主な業務内容、CAD/CAM の有無、歯科技工所の規模、勤務形態、現在の職場を辞めたいと思っているか、他の職業に移りたいと思っているか）について回答を求めた。他方、現在、歯科技工士として就業していない者に対しては、離職した時の年齢、離職理由および復職への意欲について回答を求めた。

なお、実際に質問紙調査に用いた調査票は巻末に添付した。

## 3. 集計および分析

まず、回答者の全体像を把握するため、調査票の各項目について基本統計量を算出した。また、歯科技工士として就業後の離職等に関わる要因を調べるため、現在、歯科技工士として就業していない者と歯科技工士として就業している者とに分け、基本属性や免許取得直後の就業状況との関係についてクロス集計と多重ロジスティック回帰分析を行った。この際に、免許取得直後の就業状況（学会や勉強会等への参加機会、給与の状況、勤務時間の状況および日々の業務の状況）については、4 件法にて得られた回答を二値化したうえで分析を行った。クロス集計においては、 $\chi^2$  検定を用いて比較した。多重ロジスティック回帰分析においては、就業状況（「現在、歯科技工士として就業していない」=1、「現在、歯科技工士として就業している」=0）を目的変数として、基本属性や免許取得直後の就業状況等の各項目を説明変数として投入した。データ処理には、統計解析ソフト Stata 14<sup>16,17)</sup> を用いた。

## 4. 倫理的配慮

本研究は無記名による自記式質問紙調査とし、対象者に対しては、調査の趣旨と内容を書面にて示すとともに、調査結果の公表に際して個別の情報を利用することはないことを明記した。なお、本研究は、事前に日本歯科大学東京短期大学の倫理審査を受け、承認されたうえで実施した（東短倫-218）。

## C. 研究結果

### 1. 回答者の基本属性

表1に回答者の基本属性を示す。年代別にみた回答者の年齢は、「20歳代」が54人(22.6%)、「30歳代」が72人(30.1%)、「40歳代」が82人(34.3%)、「50歳代」が30人(12.6%)であった。なお、平均年齢(標準偏差)は37.8(9.6)歳、中央値(第1四分位/第3四分位)は38(30/45)歳であった。

表1 回答者の基本属性

		回答者数	割合(%)
年齢	20歳代	54	22.6
	30歳代	72	30.1
	40歳代	82	34.3
	50歳代	30	12.6
	無回答	1	0.4
歯科技工士としての 就業年数	無し	8	3.4
	1年未満	17	7.1
	1年～5年未満	71	29.7
	5年～10年未満	42	17.6
	10年～15年未満	21	8.8
	15年～20年未満	20	8.4
	20年以上	56	23.4
	無回答	4	1.7
歯科技工士免許を 取得した年齢	25歳未満	211	88.3
	25～30歳未満	15	6.3
	30歳以上	11	4.6
	無回答	2	0.8
性別	男性	151	63.2
	女性	88	36.8
婚姻状況	未婚	115	48.1
	既婚	124	51.9
世帯員数	1名	59	24.7
	2名	46	19.3
	3名	52	21.8
	4名	60	25.1
	5名以上	16	6.7
	無回答	6	2.5
子供の数	0名	127	53.1
	1名	34	14.2
	2名	60	25.1
	3名	9	3.8
	4名以上	1	0.4
	無回答	8	3.4
歯科技工士会への 入会状況	現在入会	37	15.5
	過去に入会	36	15.1
	入会経験なし	162	67.8
	無回答	4	1.7

歯科技工士としての就業年数では、「無し」が8人(3.4%)、「1年未満」が17人(7.1%)、「1年～5年未満」が71人(29.7%)、「5年～10年未満」が42人(17.6%)、「10年～15年未満」が21人(8.8%)、「15年～20年未満」が20人(8.4%)、「20年以上」が56人(23.4%)であった。平均年数(標準偏差)は10.4(9.9)年,中央値(第1四分位/第3四分位)は6(2/19)年であった。

歯科技工士免許を取得した年齢では、「25歳未満」が211人(88.3%)、「25～30歳未満」が15人(6.3%)、「30歳以上」が11人(4.6%)であった。平均年齢(標準偏差)は21.3(3.1)歳,中央値(第1四分位/第3四分位)は21(20/38)歳であった。

性別は,男性151人(63.2%),女性88人(36.8%)であり,婚姻状況では,未婚115人(48.1%),既婚124人(51.9%)であった。

世帯員数は,「1名」が59人(24.7%)、「2名」が46人(19.3%)、「3名」が52人(21.8%)、「4名」が60人(25.1%)、「5名以上」が16人(6.7%)であり,子供の数では,「0名」が127人(53.1%)、「1名」が34人(14.2%)、「2名」が60人(25.1%)、「3名」が9人(3.8%)、「4名以上」が1人(0.4%)であった。

歯科技工士会への入会状況では,「現在入会」が37人(15.5%)、「過去に入会」が36人(15.1%)、「入会経験なし」が162人(67.8%)であった。

## 2. 歯科技工士養成施設に入学した理由

図1に,歯科技工士養成施設に入学した理由について得られた結果を示す。最も多い回答は「国家資格を取得できるから」で124人(51.9%)であり,次いで,「親・知人等のすすめ」100人(41.8%)、「医療職種だから」95人(39.7%)、「手先に自信があったから」92人(38.5%)、「安定した収入を期待」56人(23.4%)、「独立開業できるから」46人(19.2%)、「基本的に人との対面がない職業だから」23人(9.6%)の順であった。

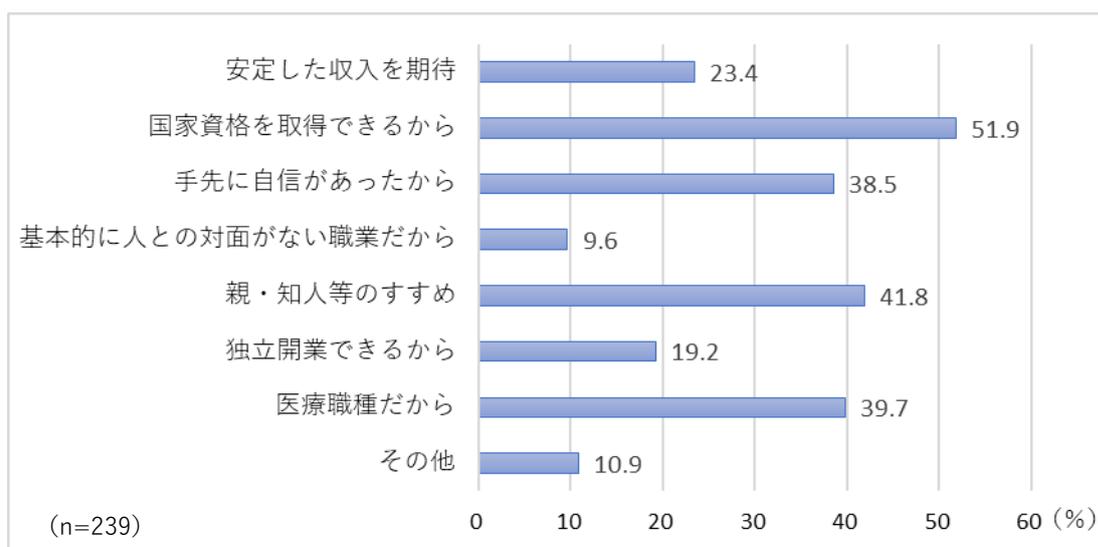


図1 歯科技工士養成施設に入学した理由(複数回答)

### 3. 現在の歯科技工士としての就業状況等について

図2に、現在の歯科技工士としての就業状況について得られた結果を示す。現に「歯科技工士として働いている」と回答した者は147人（61.5%）であり、「歯科技工士として働いていない」と回答した者は92人（38.5%）であった。

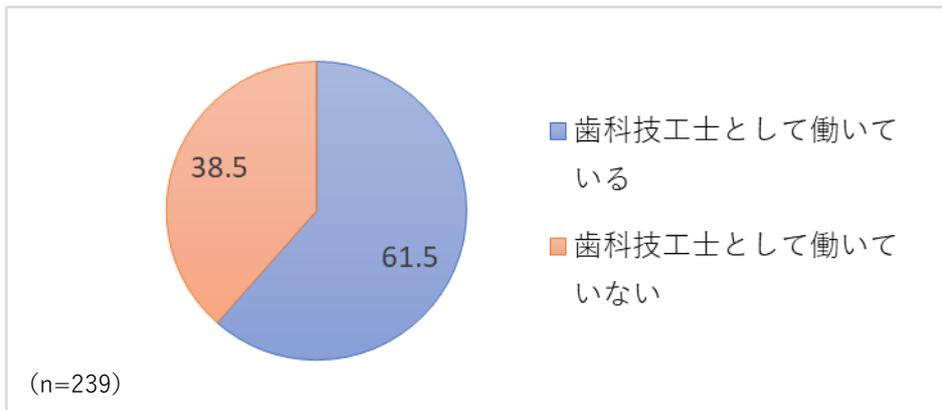


図2 現在の歯科技工士としての就業状況

表2に、歯科技工士としての業務内容に見合うと思う給与（月収）に関して得られた回答を示す。最も多い回答は「30～40万円未満」で78人（32.6%）であり、次いで、「40～50万円未満」が49人（20.5%）、「20～30万円未満」が41人（17.2%）、「60万円以上」が39人（16.3%）、「50～60万円未満」が29人（12.1%）であった。

表2 歯科技工士としての業務内容に見合うと思う給与（月収）

	回答者数	割合 (%)
20～30万円未満	41	17.2
30～40万円未満	78	32.6
40～50万円未満	49	20.5
50～60万円未満	29	12.1
60万円以上	39	16.3
無回答	3	1.3
	239	100.0

表3に、現在において歯科技工士として働いているか否かに関わらず、これまでに歯科技工士として働いた職場を変えた回数を示した。その結果、「免許は取得したが、これまでに歯科技工士として働いたことがない」が8人(3.4%)、「0回(一度技工所などに就職したが、他業種に転職した)」が46人(19.3%)、「0回(技工所などに就職してから、まだ一度も職場を変えたことがない)」が52人(21.8%)、「1回」が52人(21.8%)、「2回」が47人(19.7%)、「3回」が18人(7.5%)、「4回」が10人(4.2%)「5回以上」が1人(0.4%)であった。

表3 歯科技工士として働いた職場を変えた回数

	回答者数	割合(%)
免許は取得したが、これまでに歯科技工士として働いたことがない	8	3.4
0回(一度技工所などに就職したが、他業種に転職した)	46	19.3
0回(技工所などに就職してから、まだ一度も職場を変えたことがない)	52	21.8
1回	52	21.8
2回	47	19.7
3回	18	7.5
4回	10	4.2
5回以上	1	0.4
無回答	5	2.1
	239	100.0

#### 4. 免許を取得してから歯科技工士として働き始めた1～2年目の時の状況

図3に、免許を取得してから歯科技工士として働き始めた1～2年目の時の状況において、その時に、就職先を選択した際に重要視した条件について得られた回答を示す。最も多い回答は「立地」で114人(49.4%)であり、次いで、「業務内容」113人(48.9%)、「雰囲気」87人(37.7%)、「給与」71人(30.7%)、「就業時間」60人(26.0%)、「福利厚生」57人(24.7%)の順であった。

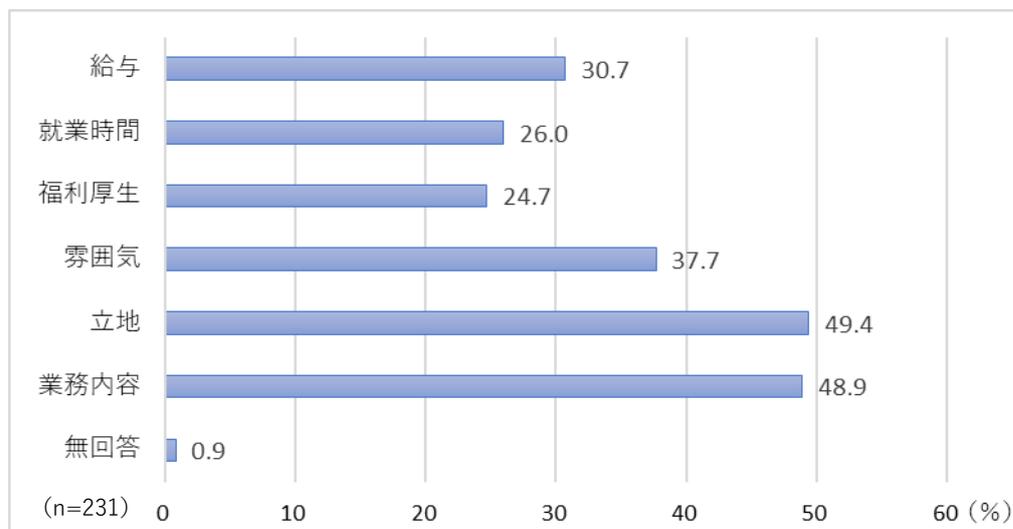


図3 就職先を選択した際に重要視した条件(複数回答)

表4に、免許を取得してから歯科技工士として働き始めた1～2年目の時の状況において、学会や勉強会等への参加機会について得られた回答を示す。「少ない」と回答した者が133人(57.6%)であり、「やや少ない」が46人(19.9%)、「やや多い」が34人(14.7%)、「多い」が13人(5.6%)であった。

**表4** 免許取得直後における学会や勉強会等への参加機会

	回答者数	割合(%)
少ない	133	57.6
やや少ない	46	19.9
やや多い	34	14.7
多い	13	5.6
無回答	5	2.2
	231	100.0

表5に、免許を取得してから歯科技工士として働き始めた1～2年目の時の状況において、その時の給与の状況について得られた回答を示す。「不満」と回答した者が104人(45.0%)であり、「やや不満」が75人(32.5%)、「やや満足」が36人(15.6%)、「満足」が15人(6.5%)であった。

**表5** 免許取得直後における給与の状況

	回答者数	割合(%)
不満	104	45.0
やや不満	75	32.5
やや満足	36	15.6
満足	15	6.5
無回答	1	0.4
	231	100.0

表6に、免許を取得してから歯科技工士として働き始めた1～2年目の時の状況において、その時の勤務時間の状況について得られた回答を示す。「不満」と回答した者が113人(48.9%)であり、「やや不満」が70人(30.3%)、「やや満足」が30人(13.0%)、「満足」が17人(7.4%)であった。

**表6** 免許取得直後における勤務時間の状況

	回答者数	割合(%)
不満	113	48.9
やや不満	70	30.3
やや満足	30	13.0
満足	17	7.4
無回答	1	0.4
	231	100.0

表7に、免許を取得してから歯科技工士として働き始めた1～2年目の時の状況において、その時の日々の業務状況について得られた回答を示す。「不満」と回答した者が90人(39.0%)であり、「やや不満」が71人(30.7%)、「やや満足」が50人(21.7%)、「満足」が19人(8.2%)であった。

**表7** 免許取得直後における日々の業務の状況

	回答者数	割合(%)
不満	90	39.0
やや不満	71	30.7
やや満足	50	21.7
満足	19	8.2
無回答	1	0.4
	231	100.0

## 5. 歯科技工士就業の要因分析

表8に、現在、歯科技工士として就業していない者と歯科技工士として就業している者に分け、基本属性や免許取得直後の就業状況との関係についてクロス集計により分析した結果を示す。危険率5%水準で有意差が認められた項目は、「性別」、「理想給与」および「免許取得直後の就業状況・日々の業務の状況」であった。

表8 歯科技工士としての就業状況と基本属性等とのクロス集計

		歯科技工士として 就業していない		歯科技工士として 就業している		p 値
		回答者数	割合 (%)	回答者数	割合 (%)	
年齢	20歳代	13	24.1	41	75.9	0.058
	30歳代	32	44.4	40	55.6	
	40歳代	32	39.0	50	61.0	
	50歳代	15	50.0	15	50.0	
性別	男性	43	28.5	108	71.5	<0.001
	女性	49	55.7	39	44.3	
婚姻状況	未婚	37	32.2	78	67.8	0.053
	既婚	55	44.4	69	55.7	
歯科技工士としての業務内容に見合うと思う給与（月収）（理想給与）	20～30万円未満	7	17.1	34	82.9	<0.001
	30～40万円未満	40	51.3	38	48.7	
	40～50万円未満	25	51.0	24	49.0	
	50～60万円未満	11	37.9	18	62.1	
	60万円以上	8	20.5	31	79.5	
歯科技工士として働き始めた	学会等への参加機会 少ない	65	36.3	114	63.7	0.986
	多い	17	36.2	30	63.8	
1～2年目の時の状況	給与の状況 不満	67	37.4	112	62.6	0.592
	満足	17	33.3	34	66.7	
(免許取得直後の就業状況)	勤務時間の状況 不満	71	38.8	112	61.2	0.157
	満足	13	27.7	34	72.3	
日々の業務の状況	不満	67	41.6	94	58.4	0.014
	満足	17	24.6	52	75.4	

$\chi^2$ 検定により比較

免許取得直後の就業状況（学会や勉強会等への参加機会、給与の状況、勤務時間の状況および日々の業務の状況）については、4件法にて得られた回答を二値化したうえで分析した。

表9,10に、性により層別したうえで、歯科技工士としての就業状況（「現在、歯科技工士として就業していない（非就業者）」=1,「現在、歯科技工士として就業している」=0）を目的変数として、基本属性や免許取得直後の就業状況等の各項目を説明変数とした多重ロジスティック回帰分析の結果を示す。

男性において有意な関連がみられた項目は、「年齢・30歳代（OR:9.29, CI:1.63-53.05）, 40歳代（OR:13.77, CI:2.13-89.02）, 50歳代（OR:47.70, CI:5.33-426.77）」,「理想給与・30~40万円未満（OR:24.78, CI:2.08-294.88）, 40~50万円未満（OR:24.85, CI:2.34-263.84）」であった（Pseudo R<sup>2</sup>=0.233）（表9）。

すなわち、男性の非就業者は就業者に比べ、高齢な傾向にあり、歯科技工士としての業務内容に見合うと思う給与は20~30万円未満よりも30~50万円未満の方が適正であると感じていた。

表9 就業状況（非就業者=1）と基本属性等との多重ロジスティック回帰分析（男性）

		オッズ比	95%信頼区間		p値
年齢	20歳代（基準）	1.00			
	30歳代	9.29	1.63	53.05	0.012
	40歳代	13.77	2.13	89.02	0.006
	50歳代	47.70	5.33	426.77	0.001
婚姻状況	未婚	2.04	0.79	5.28	0.143
	既婚（基準）	1.00			
歯科技工士としての業務内容に見合うと思う給与（月収）（理想給与）	20~30万円未満（基準）	1.00			
	30~40万円未満	24.78	2.08	294.88	0.011
	40~50万円未満	24.85	2.34	263.84	0.008
	50~60万円未満	8.39	0.74	95.18	0.086
	60万円以上	1.73	0.16	19.04	0.656
歯科技工士として働き始めた	学会等への参加機会 少ない	0.91	0.30	2.74	0.872
	多い（基準）	1.00			
1~2年目の時の状況	給与の状況 不満	1.70	0.45	6.41	0.430
	満足（基準）	1.00			
(免許取得直後の就業状況)	勤務時間の状況 不満	1.31	0.30	5.72	0.717
	満足（基準）	1.00			
日々の業務の状況	不満	3.34	0.94	11.90	0.063
	満足（基準）	1.00			
n		142			
Pseudo R <sup>2</sup>		0.233			
Prob > chi2		<0.001			

目的変数は、「現在、歯科技工士として就業していない（非就業）」=1,「現在、歯科技工士として就業している」=0とし、説明変数は、基本属性や免許取得直後の就業状況等の各項目をすべて投入した。

一方、女性において有意な関連がみられた項目は、「未婚 (OR : 0.07, CI : 0.01-0.38)」, 「理想給与・30~40万円未満 (OR : 11.16, CI : 2.16-57.54), 40~50万円未満 (OR : 9.78, CI : 1.31-73.02)」, 「免許取得直後の就業状況・日々の業務の状況 (OR : 6.14, CI : 1.16-32.62)」であった (Pseudo R<sup>2</sup>=0.297)。

すなわち、女性の非就業者は就業者に比べ、既婚者である傾向が高く、歯科技工士としての業務内容に見合うと思う給与は20~30万円未満よりも30~50万円未満の方が適正であると感じており、歯科技工士として働き始めた1~2年目の時における日々の業務に対して不満を感じていた。

**表 10** 就業状況 (非就業者=1) と基本属性等との多重ロジスティック回帰分析 (女性)

		オッズ比	95%信頼区間		p 値
年齢	20歳代 (基準)	1.00			
	30歳代	0.47	0.08	2.63	0.390
	40歳代	0.82	0.14	4.80	0.826
	50歳代		(omitted)		
婚姻状況	未婚	0.07	0.01	0.38	0.002
	既婚 (基準)	1.00			
歯科技工士としての業務内容に見合うと思う給与 (月収) (理想給与)	20~30万円未満 (基準)	1.00			
	30~40万円未満	11.16	2.16	57.54	0.004
	40~50万円未満	9.78	1.31	73.02	0.026
	50~60万円未満	6.54	0.51	83.21	0.148
	60万円以上		(omitted)		
歯科技工士として働き始めた	学会等への参加機会 少ない	1.49	0.29	7.67	0.634
	多い (基準)	1.00			
1~2年目の時の状況	給与の状況 不満	0.49	0.10	2.38	0.374
	満足 (基準)	1.00			
(免許取得直後の就業状況)	勤務時間の状況 不満	4.04	0.63	25.88	0.141
	満足 (基準)	1.00			
	日々の業務の状況 不満	6.14	1.16	32.62	0.033
	満足 (基準)	1.00			
n		74			
Pseudo R <sup>2</sup>		0.297			
Prob > chi2		<0.001			

目的変数は、「現在、歯科技工士として就業していない (非就業)」=1, 「現在、歯科技工士として就業している」=0 とし、説明変数は、基本属性や免許取得直後の就業状況等の各項目をすべて投入した。

## 6. 現在、歯科技工士として就業している者の就業環境について

表 11 に、現に歯科技工士として就業している者を対象として、現在の就業場所について得られた回答を示す。「歯科技工所（開業）」が 33 人（22.4%）であり、「歯科技工所（勤務）」が 82 人（55.8%）、「病院」が 6 人（4.1%）、「歯科診療所」が 20 人（13.6%）、「歯科関係企業」が 3 人（2.0%）、「養成機関」が 2 人（1.4%）であった。

表 11 現在の就業場所

	回答者数	割合 (%)
歯科技工所（開業）	33	22.4
歯科技工所（勤務）	82	55.8
病院	6	4.1
歯科診療所	20	13.6
歯科関係企業	3	2.0
養成機関	2	1.4
無回答	1	0.7
	147	100.0

表 12 に、表 11 で「歯科技工所（開業）」、「歯科技工所（勤務）」、「病院」または「歯科診療所」に就業していると回答した者を対象として、現在の主な業務内容について調べた結果を示す。「クラウン・ブリッジ」と回答した者が 81 人（57.4%）で最も多く、次いで、「有床義歯」47 人（33.3%）、「小児矯正」8 人（5.7%）の順であった。

表 12 現在の主な業務内容

	回答者数	割合 (%)
有床義歯	47	33.3
クラウン・ブリッジ	81	57.4
小児矯正	8	5.7
無回答	5	3.5
	141	100.0

表 11 で歯科技工所（開業・勤務）、病院、歯科診療所に勤務していると回答した者が対象

表 13 に、表 12 で得られた結果に関して、年齢区分との関係を示す。現在の主な業務内容について、いずれの年代においても「クラウン・ブリッジ」と回答した者が最も多く、次いで「有床義歯」、「小児矯正」の順であった。

**表 13** 現在の主な業務内容

	n	歯科技工所・病院・診療所就業者の現在の主な業務 (%)				
		有床義歯	クラウン・ブリッジ	小児矯正	無回答	
現在の 年齢	20歳代	40	30.0	55.0	10.0	5.0
	30歳代	36	25.0	63.9	8.3	2.8
	40歳代	49	44.9	53.1	2.0	0.0
	50歳代	15	26.7	60.0	0.0	13.3
	無回答	1	0.0	100.0	0.0	0.0
計	141	33.3	57.5	5.7	3.6	

表 14 に、表 11 で「歯科技工所（開業）」、「歯科技工所（勤務）」、「病院」または「歯科診療所」に就業していると回答した者を対象として、現在の職場での CAD/CAM の有無について調べた結果を示す。「CAD/CAM がある」と回答した者が 65 人 (46.1%) で最も多く、次いで、「ない」58 人 (41.1%)、「CAD のみある」16 人 (11.3%) の順であった。

**表 14** CAD/CAM の有無

	回答者数	割合 (%)
ない	58	41.1
CADのみある	16	11.3
CAD/CAMがある	65	46.1
無回答	2	1.4
	141	100.0

表 11 で歯科技工所（開業・勤務）、病院、歯科診療所に勤務していると回答した者が対象

表 15 に、表 11 で「歯科技工所（開業）」または「歯科技工所（勤務）」に就業していると回答した者を対象として、現在の歯科技工所の規模について調べた結果を示す。「5～9 人」と回答した者が 35 人（30.4%）で最も多く、次いで、「20 人以上」26 人（22.6%）、「1 人」19 人（16.5%）、「2～4 人」18 人（15.7%）、「10～19 人」15 人（13.0%）の順であった。

**表 15** 歯科技工所の規模

	回答者数	割合 (%)
1人	19	16.5
2～4人	18	15.7
5～9人	35	30.4
10～19人	15	13.0
20人以上	26	22.6
無回答	2	1.7
	115	100.0

表 11 で歯科技工所（開業・勤務）に勤務していると回答した者が対象

表 16 に、現に歯科技工士として就業している者の勤務形態について調べた結果を示す。「常勤（週 40 時間以上の勤務）」と回答した者が 131 人（89.1%）であり、「非常勤」と回答した者は 14 人（9.5%）であった。

**表 16** 勤務形態

	回答者数	割合 (%)
常勤（週40時間以上の勤務）	131	89.1
非常勤	14	9.5
無回答	2	1.4
	147	100.0

表 17 に、現に歯科技工士として就業している者を対象として、現在の職場を辞めたいと思っているか（開業の場合は、廃業）否かについて調べた結果を示す。「思わない」と回答した者が 67 人（45.6%）であり、「やや思う」が 48 人（32.7%）、「思う」が 31 人（21.1%）であった。

**表 17** 現在の職場を辞めたいと思っているか（開業の場合は、廃業）

	回答者数	割合 (%)
思わない	67	45.6
やや思う	48	32.7
思う	31	21.1
無回答	1	0.7
	147	100.0

表 18 に、現に歯科技工士として就業している者を対象として、他の職業に移りたいと思っているか否かについて調べた結果を示す。「思わない」と回答した者が 68 人 (46.3%) であり、「やや思う」が 50 人 (34.0%)、「思う」が 27 人 (18.4%) であった。

表 18 他の職業に移りたいと思っているか

	回答者数	割合 (%)
思わない	68	46.3
やや思う	50	34.0
思う	27	18.4
無回答	2	1.4
	147	100.0

表 19 に、表 18 の結果を年代別に分類した結果を示す。他の職業に移りたいと思っている者（「やや思う」と「思う」の計）は、20 歳代が 58.5%、30 歳代が 47.5%、40 歳代が 42.0% であった。

表 19 年齢別にみた他の職業への転職希望

	n	他の職業に移りたいと思っているか (%)				「やや思う」と「思う」の計 (再掲)	
		思わない	やや思う	思う	無回答		
現在の年齢	20歳代	41	41.5	46.3	12.2	0.0	58.5
	30歳代	40	50.0	30.0	17.5	2.5	47.5
	40歳代	50	56.0	26.0	16.0	2.0	42.0
	50歳代	15	20.0	40.0	40.0	0.0	80.0
	無回答	1	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0
	計	147	46.3	34.0	18.4	1.4	52.4

## 6. 現在、歯科技工士として就業していない者の状況等について

表 20 に、現在、歯科技工士として就業していない者が、歯科技工士としての仕事を最後に辞めたときの年齢を示す（離職時の年齢）。年代別にみた回答者の年齢は、「20～25 歳未満」が 47 人（51.1%）であり、「25～30 歳未満」が 26 人（28.3%）、「30～35 歳未満」が 8 人（8.7%）、「35 歳以上」が 10 人（10.9%）であった。なお、平均年齢（標準偏差）は 25.6（5.0）歳、中央値（第 1 四分位/第 3 四分位）は 24（22/28）歳であった。

表 20 歯科技工士としての仕事を最後に辞めたときの年齢

	回答者数	割合 (%)
20～25歳未満	47	51.1
25～30歳未満	26	28.3
30～35歳未満	8	8.7
35歳以上	10	10.9
無回答	1	1.1
	92	100.0

表 21 に、現在、歯科技工士として就業していない者に関して、現在の年齢と歯科技工士としての仕事を最後に辞めたときの年齢との関係を示す。いずれの年代においても、歯科技工士としての仕事を最後に辞めたときの年齢（離職時の年齢）は、「20～25 歳未満」の割合が高かった。現在、歯科技工士として就業していない者の 79.4%の者が 20 歳代で離職をしており、そのうち 51.1%の者が 20～25 歳未満で離職をしていた。

表 21 現在の年齢と歯科技工士としての仕事を最後に辞めたときの年齢との関係

	n	歯科技工士としての仕事を最後に辞めたときの年齢（離職時の年齢） (%)					
		20～25歳未満	25～30歳未満	30～35歳未満	35歳以上	無回答	
20歳代	13	53.9	46.2	-	-	-	
現在の 年齢	30歳代	32	53.1	25.0	12.5	6.3	3.1
	40歳代	32	46.9	31.3	6.3	15.6	0.0
	50歳代	15	53.3	13.3	13.3	20.0	0.0
計	92	51.1	28.3	8.7	10.9	1.1	

図4に、現在、歯科技工士として就業していない者が、歯科技工士としての仕事を辞めた理由について得られた回答を示した（離職理由）。「給与・待遇の面」と回答した者が53人（57.6%）で最も多く、次いで、「仕事内容への不安」42人（45.7%）、「健康面」32人（34.8%）、「人間関係」27人（29.3%）、「歯科以外への興味」14人（15.2%）、「出産・育児」13人（14.1%）、「結婚」11人（12.0%）、「家庭等の事情」6人（6.5%）、「家族等の介護」1人（1.1%）の順であった。

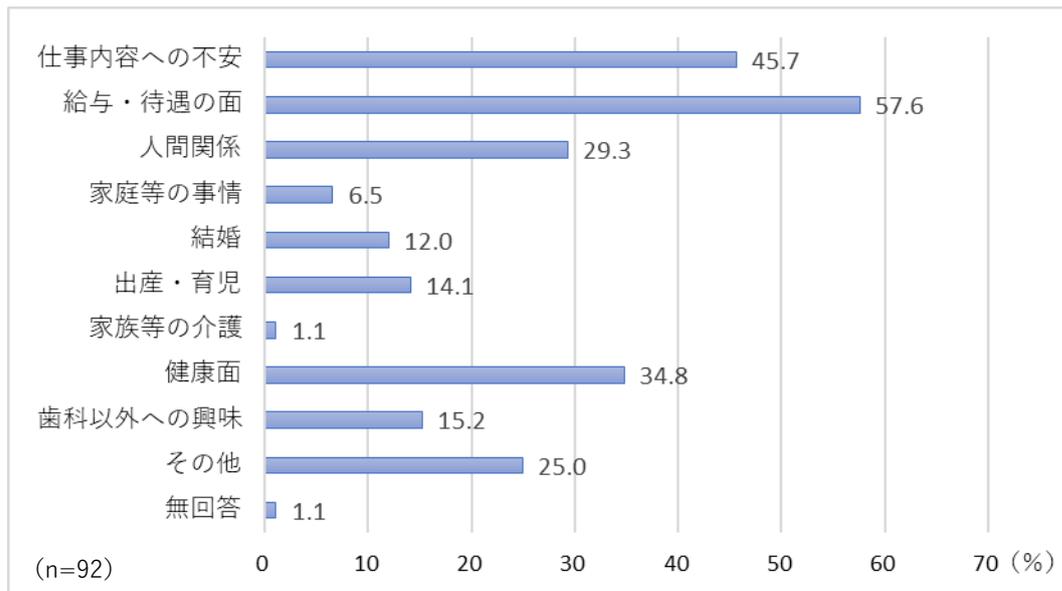


図4 歯科技工士としての仕事を辞めた理由（複数回答）

表22に、現在、歯科技工士として就業していない者が、歯科技工士として再び働くことへの意欲について得られた回答を示した。「とても意欲がある」と回答した者が4人（4.3%）であり、「少し意欲がある」が23人（25.0%）、「そのつもりはない」が64人（69.6%）であった。

表22 歯科技工士として再び働くことへの意欲

	回答者数	割合 (%)
とても意欲がある	4	4.3
少し意欲がある	23	25.0
そのつもりはない	64	69.6
無回答	1	1.1
	92	100.0

## D. 考察

本研究では、歯科技工士の免許取得直後や現在の就業状況等を把握し、就業継続や離職等に影響を与える関連要因を明らかにすることを目的に、初年度研究計画の一環として、歯科技工士養成施設 1 校の卒業生を対象に質問紙調査を実施した。その結果、分析対象である 239 件のうち、現在、歯科技工士の資格を以て就業している者は 61.5%であり、歯科技工士として就業していない者は 38.5%であった。また、現に歯科技工士として就業していない者の 79.4%の者が 20 歳代で離職をしており、そのうち 51.1%の者が 20~25 歳未満で離職をしているなど、免許取得後の早い段階において歯科技工士としての仕事を離れていたことが明らかになった。

歯科技工士の就業状況については、厚生労働省等の報告<sup>5,10)</sup>によれば、2016 年末時点で歯科技工士免許取得者 118,551 人のうち、就業者数は 34,640 人(就業者率 29.2%)であり、3 割程度の者のみが歯科技工士の資格を以て就業をしている状況にある。本研究の結果では、分析対象者の約 6 割が歯科技工士として就業しており、比較的高率を示していた。この点に関しては、調査回収率が 18.7%と低率であることや、現に歯科技工士として働いていない場合には調査協力へのモチベーションが低下し、回答者が就業者に偏る可能性があることなどに留意する必要があるものの、対象施設は長期に渡り卒業生を輩出し教育のノウハウを有していることなどから、全国的な状況に比べると就業率が高い集団である可能性が考えられる。

本研究結果において、現に歯科技工士として就業している者のなかで、他の職業に移りたいと思っている者(「やや思う」と「思う」の計)は全体では 52.4%であり、年代別では特に 20 歳代が 58.5%と高率であった。また、非就業者は、前記のとおり約 8 割が 20 歳代で離職をしており、歯科技工士として就業している者に比べ、歯科技工士としての業務内容に見合うと思う給与は 20~30 万円未満では少ないと感じており、女性においては、免許取得後に歯科技工士として働き始めた 1~2 年目の時における日々の業務に対して不満を感じている傾向にあった。日本歯科技工士会が会員を対象として 3 年毎に実施している歯科技工士実態調査での直近(2015 年)の報告<sup>11)</sup>によれば、分析対象 1,025 人(平均年齢:50.1 歳)のうち、歯科技工業から離れて他業に移りたいと思っている者は 25.4%と報告されている。これらの結果からも、歯科技工士免許を取得し就業直後の環境等が、その後の就業の定着や離職を判断するうえで節目の一つになっていると捉えることができる。

厚生労働省が集計している新規学卒就職者の離職状況に関する報告<sup>18)</sup>によれば、2014 年 3 月に高校や大学等を卒業した者の就職後 3 年以内の離職率は、新規高卒就職者が 40.8%、新規大卒就職者が 32.2%と公表している。また、産業別(職種別)に分類した離職状況では、医療・福祉に従事する者に関して、新規高卒就職者が 46.9%、新規大卒就職者が 37.6%と報告している。この調査報告では、雇用保険加入の届出状況により離職者を算出しているため、当該職種を完全に離職したか否かの状況は判別できないが、少なくとも医療・福祉に関する職種では、養成施設等を卒業し就業した後であっても、早期に離職等を選択する者が多いことを示すものである。

なお、本報告書の安藤らによる分析<sup>19)</sup>によれば、歯科衛生士では一旦離職をした後も復職する傾向が見受けられるが、歯科技工士では、こうした傾向がないことを示している。これらの結果は、歯科技工士という職種が有する就業継続の困難性を示すものであり、今後、安定供給方策等を検討するにあたって、併せて考察すべき要素であると考えられる。

今回、本研究の初年度計画として、歯科技工士の就業状況等の把握や離職等に影響を与える関連要因を明らかにすることを趣旨として、歯科技工士養成施設を卒業した者を対象とした調査を行ったが、今後も他の施設に対しても同様の調査を実施し、歯科技工士の就業状況等に基づく安定供給方策に関して、さらに考察を加えていく予定である。

## E. 結論

歯科技工士の就業状況や離職等の状況について、歯科技工士養成施設の卒業生を対象として質問紙調査を行い、有効な回答が得られた239件（有効回答率：19.6%）を分析した結果、以下の結論を得た。

分析対象者の平均年齢（標準偏差）は37.8（9.6）歳であり、年代別では、20歳代22.6%、30歳代30.1%、40歳代34.3%、50歳代12.6%であった。現在、歯科技工士の資格を以て就業している者は61.5%であり、歯科技工士として就業していない者は38.5%であった。現に歯科技工士として就業していない者が、歯科技工士としての仕事を離職したときの平均年齢（標準偏差）は25.6（5.0）歳であり、79.4%の者が20歳代で離職をしており、そのうち51.1%の者が20～25歳未満で離職をしていた。現に歯科技工士として就業していない者は、歯科技工士として就業している者に比べ、歯科技工士としての業務内容に見合うと思う給与は20～30万円未満では少ないと感じており、また、女性においては、免許取得後に歯科技工士として働き始めた1～2年目の時における日々の業務に対して不満を感じている傾向にあった。

## F. 引用文献

- 1) 厚生労働省：医療施設調査，<http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/79-1.html>（2018年3月28日アクセス）。
- 2) 宮崎秀夫，佐藤博信，末瀬一彦，阿部 智：歯科技工物の多国間流通の現状把握に関する調査研究，平成26年度厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）総括研究報告書，2015。
- 3) 大島克郎，安藤雄一，青山 旬：社会医療診療行為別調査/統計を用いた義歯装着数の推移，ヘルスサイエンス・ヘルスケア，16：48～54，2016。
- 4) 大島克郎，安藤雄一，青山 旬，恒石美登里：歯科技工に関する需給分析－社会医療診療行為別調査/統計を中心とした義歯装着数の推移と将来予測－，厚生労働科学研究費補助金地域医療基盤開発推進研究事業「歯科衛生士及び歯科技工士の復職支援等の推進に関する研究」，平成28年度総括・分担研究報告書：133～144，2017。
- 5) 厚生労働省：衛生行政報告例，<http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/36-19.html>（2018年1月15日アクセス）。

- 6) 安藤雄一, 大島克郎: 就業歯科衛生士・歯科技工士の推移と都道府県別比較, 厚生労働科学研究費補助金地域医療基盤開発推進研究事業「歯科衛生士及び歯科技工士の復職支援等の推進に関する研究」, 平成 28 年度総括・分担研究報告書: 66~73, 2017.
- 7) 青山 旬, 大内章嗣: 歯科技工士の現状と近年の推移と将来推計, 厚生労働科学研究費補助金地域医療基盤開発推進研究事業「歯科医療関連職種と歯科医療機関の業務のあり方及び需給予測に関する研究」, 平成 23 年度総括・分担研究報告書: 79~83, 2012.
- 8) 大島克郎, 安藤雄一: 歯科診療所における歯科技工士数減少に関する兆候と歯科技工状況の現状把握, 厚生労働科学研究費補助金地域医療基盤開発推進研究事業「歯科衛生士及び歯科技工士の復職支援等の推進に関する研究」, 平成 28 年度総括・分担研究報告書: 145~158, 2017.
- 9) 大島克郎, 安藤雄一, 鈴木文登, 藤原元幸: 歯科診療所における歯科技工状況と歯科技工士数減少に関する兆候の実態把握ー秋田県歯科医師会会員を対象とした質問紙調査による分析ー, 日歯医療管理会誌, 2018, 53 (in press).
- 10) 厚生労働統計協会: 国民衛生の動向・厚生 of 指標 63: 220, 2016.
- 11) 公益社団法人日本歯科技工士会: 2015 歯科技工士実態調査報告書, 2016.
- 12) 佐藤博信, 宮崎秀夫, 末瀬一彦, 大久保力廣: 歯科技工業の業務形態の実態把握に関する研究, 平成 27 年度厚生労働科学研究費補助金 (地域医療基盤開発推進研究事業) 総括研究報告書, 2016.
- 13) 矢野哲也: 本校歯科技工学科卒業生における歯科技工士離職率の調査, 大分県歯科技術専門学校紀要, 4, 55~57, 2017.
- 14) 相馬泰栄, 中澤孝敏: 本学歯科技工士学科卒業生の離職についてー卒業時他業種選択者および卒業後 1 年以内の離職者と実技成績の関係ー, 明倫短期大学紀要, 17, 54~57, 2014.
- 15) 中澤孝敏, 相馬泰栄, 植木一範: 歯科技工士学科第 8 回卒業生の就業状況調査 - 卒業 6 年の追跡調査結果による考察 -, 明倫短期大学紀要, 17, 58~61, 2014.
- 16) Stata: <http://www.stata.com/> (2018 年 3 月 20 日アクセス).
- 17) 統計解析ソフト Stata (Light Stone 社), <http://www.lightstone.co.jp/stata/index.html> (2018 年 3 月 20 日アクセス).
- 18) 厚生労働省: 新規学卒者の離職状況, [http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou\\_roudou/koyou/jakunen/jakunensha-houdou.html](http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/koyou/jakunen/jakunensha-houdou.html) (2018 年 3 月 28 日アクセス).
- 19) 安藤雄一, 大島克郎: 同一出生世代別就業者数の推移からみた歯科衛生士と歯科技工士の復職状況, 厚生労働科学研究費補助金地域医療基盤開発推進研究事業「歯科衛生士及び歯科技工士の就業状況等に基づく安定供給方策に関する研究」, 平成 29 年度総括・分担研究報告書: 2018.

## G. 研究発表

なし

## H. 知的財産権の出願・登録状況

なし





